

正直に努力すれば、必ず成功するとかね。父はそういうことをいつも言っていたね。



語り継ぐ浜松—このまちで暮らして

No. 01

増子 利栄

João Toshiie Masuko

# 語り継ぐ浜松 —このまちで暮らして

浜松に住む外国人のみなさんは、どこから来たのでしょうか？人数が多い順に言うと、ブラジル、フィリピン、中国、ベトナム、ペルー、韓国、となります。ここでは、それぞれの国から訪れた、HICEと関わりの深い方々にお話をうかがいました。6名の方々には、出生のこと、それぞれの国でのエピソード、来日のきっかけ、浜松での暮らしなど、ライフヒストリーを語っていただきました。

## ブラジルでの生活

—ブラジルでは増子さん一家はどんな家庭だったんですか？

私の父は日本人で、独身でブラジルに行き、コーヒー農園をやっていました。母はブラジル生まれの日本人。両親はブラジルで出会って結婚しました。

私はブラジル生まれで、日本に届けを出さなかったから日本国籍（※1）は無いんです。届けたら日本人になっていましたね。ブラジルは二重国籍を認めるから、ブラジルで生まれて、日本に届けると二重国籍になっちゃうの。

兄弟は七人です。全員日本語が話せません。家の中では日本語で、ポルトガル語は絶対話してはいかんって言われていました。そのくらい厳しかった。でも、現地の学校に通っていたし、外へ出るとほとんどポルトガル語でしょ。日本語は、あんまり使わなかったね。家の中とか日本人会館とか、そういうときしか使わない。だからポルトガル語がどんどんうまくなっていきました。

—ブラジルでの日系人コミュニティ（※2）の絆は強いと聞きましたが？

そうですね、うちも文化協会とかいろいろ入っていました。現地では、日系人はみんな協力し合っていてやっています。しっかりしてるの。日系人の寄付で病院や学校、日本人会館が建ちます。そのとき、寄付のお願いがまわってくるから私もずっと寄付をしてきました。

サンパウロのグアルリオスにある病院

## マスコ・トシエイ

1950年生まれ、ブラジルサンパウロ州出身。日系二世。アダマンチーナで父が営んでいたコーヒー農園で働いた後、1971年ブラジルに進出したスーパーマーケット「ヤオハン」に就職。その後独立し、種の販売で事業を拡大するが、1980年代後半にブラジル経済情勢が悪化したため1988年来日。浜松でブラジルスーパーマーケット「セルヴィツ」<sup>1</sup>とブラジルパンや食品の製造工場「セルヴィパン」<sup>2</sup>を経営。浜松にいながらブラジルを感じられる老舗店の店主として、コミュニティのみならず、日本社会からも厚い信頼を得ている。